

学習展開例（第6学年 音楽）

※狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動は、感染症対策を講じてもお感染の可能性が高いため、当分の間行わない。

○年間を通じて、休憩時間等で教科書の音楽を流して親しませ、家庭で歌を歌ったり楽器の練習をしたりできるようにする。

担当  
(小島)

教科書の 順番	学期	題材名	内容	学習目標	標準時数	学習展開例		想定時数
						学校（みんな）ですること	家（一人）ですること	
巻頭		心をつなぐ歌声	歌唱	年間を通して愛唱し、歌う楽しさを味わいましょう。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生で学習する曲を聴いたり、口づさんたり、教科書P.4, 5の学習する内容や全体をめぐって見たりして、特にやってみたい曲や内容等について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書をめくりながら、やってみたいことや興味のあることを考える。</li> <li>・興味のある曲を歌ったり、リコーダーや鍵盤ハーモニカで練習したりする。</li> </ul>	
1	1	歌声をひびかせて心をつなげよう	歌唱	歌詞の表す情景を思い浮かべながら、曲想にふさわしい歌声で歌いましょう。				
2	1	いろいろな音色を感じ取ろう	器楽 音楽づくり 鑑賞	オーケストラのひびきを味わいながらききましょう。パートの役割や楽器の音色の特徴を生かして合奏しましょう。声のひびきが重なるおもしろさを生かして、音楽をつくりましょう。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木星を、色々な音色が重なって生まれる響きや表現に関心をもって聴く。</li> <li>・楽器の音色の特徴に気をつけながら楽器を選び、演奏の仕方を工夫しながら合奏する。</li> <li>・グループでボイスパーカッションを付ける曲を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラバースコンチェルトの練習をする。</li> <li>・自分の好きな曲を、曲の感じと演奏の工夫の関係を考えながら聴く。</li> <li>・グループで選んだ曲に合う、ボディーパーカッションを考えたり、曲に合わせて演奏する練習をしたりする。</li> </ul>	
3	1	旋律の特徴を生かして表現しよう	歌唱 器楽	歌詞と曲想との関わりに気を付けて歌いましょう。旋律のまとまりに気を付けて演奏しましょう。	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メヌエット」「雨の歌」を、旋律のまとまりや短調と長調の和音の響きを感じながら演奏したり聴いたりする。</li> <li>・短調と長調の和音の響きの違いを感じながら演奏する。</li> <li>・旋律の特徴を感じながら歌う。</li> <li>・和音を使った旋律づくりのやり方を知る。</li> <li>・つくった旋律を発表し合って、気づいたことや感じ取ったことを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メヌエット」「雨の歌」から選んで練習する。</li> <li>・和音に含まれる音の中から選び、できた旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで確かめながら音楽をつくる。</li> </ul>	
4	1	いろいろな和音のひびきを感じ取ろう	鑑賞 器楽 音楽づくり	歌声の重なりや和音ひびきを感じ取りながら、合唱したり演奏したりしましょう。和音にふくまれる音を使って旋律をつくりましょう。				
6	2	詩と音楽の関わりを味わおう	歌唱 鑑賞	言葉と旋律の美しさを感じ取りながら、日本の歌を味わいましょう。人々が大切にしてきた歌を味わい、思いが伝わるように歌いましょう。	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の音楽を複数選び、歌詞と旋律から気づいたこと、感じたこと思い浮かべたことなどを考えながら聴き、曲の特徴を話し合う。</li> <li>・日本の音楽の中から1曲選び、作曲家や楽器等調べたことと曲を合わせて発表する。</li> <li>・世界の色々な国の音楽を、雰囲気の違いに気を付けながら聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな曲の歌詞と旋律について調べる。</li> <li>・選んだ曲の作曲家や楽器等について調べる。</li> </ul>	
7	2	日本や世界の音楽に親しもう	歌唱 鑑賞	日本に古くから伝わる音楽に親しみましょう。世界のいろいろな国の音楽に親しみましょう。				
5	1	曲想の変化を感じよう	歌唱 器楽 鑑賞	曲想の変化を味わいながら、思いをこめて歌いましょう。曲想の移り変わりを味わいながらききましょう。曲想を生かして合奏しましょう。	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮者の人たちが、曲の移り変わりをどのように工夫して表現しているかに気を付けて、ハンガリー舞曲を聴き比べる。</li> <li>・「風を切って」「さよなら友よ」などから、演奏したい曲や歌いたい曲を決め、どんな音楽にするために、どのように表現するか話し合う。</li> <li>・練習計画を立て、家庭で練習した部分を合わせる。</li> <li>・自分たちの考えた表現に近づくよう、全体の響きを感じながら合奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決めた曲から、どんな音楽にしたいか、どんな表現の工夫ができそうか考える。</li> <li>・自分のパートのリズムの確認、階名唱、声出しなど家ででもできる練習をする。</li> </ul>	
8	2	音楽で思いを伝えよう	歌唱	曲想を生かして表情豊かに、気持ちを込めて歌いましょう。				
		歌いごう 日本の歌			3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で必要に応じて選んで歌ったり聴いたり演奏したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな曲を歌ったり、演奏したりする。</li> </ul>	
		みんなで楽しく						
					50			

・「想定時数」は、学校ですること（授業）の時数とする。